様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年 １０ 月 ２６ 日現在

機関番号：３４５０９
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2015
課題番号：２６５９０２０６

研究課題名（和文）家庭内読書の普及をめざす「家読」事業の教育的効果に関する実証的研究

研究課題名（英文）Positive Study on Educational Effects of Program for Reading Activity in Family

研究代表者
立田　慶裕（Yoshihiro, Tatsuta）

神戸学院大学・人文学部・教授

研究者番号：５０１３５６４６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の結果、関東及び関西、長野の事例収集を行った。国際図書館大会への参加から、台湾や韓国といったアジアの事例を除いては、大きな展開がまだみられていない。日本はその点で読書推進活動が盛んな自治体ほど家読事業を熱心に進めている。しかし、その効果についての実証的な資料は茅野市を除きほとんどみられない。家庭の読書自体の効果に関する調査を実施した。その結果、親が読書好きな家庭でもその３分の１の子どもは読書への関心をもつとは限らない。他方そうでない家庭であっても３分の１の子どもは読書への関心を持つ傾向がある。このことから、家庭の重要性はいうまでもなく、学校や地域の読書環境の重要性が明らかにされた。

研究成果の概要（英文）：Results of this research, i visited to some local cases and from the participation of international conference of library I found there was little cases on promotions for family reading without some countries.In Japan, many local governments are promoting family reading activities by some strategies. But there was little positive evidence on effects of family reading without Chino City.
In this study, the positive research on family reading activity by internet. One of results is on the effect of parent reading to child reading activity. Parents reading books more relate to their children reading and parents who have no habit of reading relate to their children without habit of reading.

研究分野：生涯学習論、教育社会学

キーワード：家読　家庭内読書　教育効果

１．研究開始当初の背景

「子どもの読書活動の推進に関する法律」(2001 年)の制定、「文字・活字文化振興法」(2005 年)など、近年子どもと成人の読書推進施策が急速に充実しつつある。

こうした実践に対し、日本の読書教育の研究としては、秋田喜代美らの研究（『本を通して絆をつむぐ-児童期の暮らしを創る読書環境』2006 等）や「朝の読書」運動（『朝の読書-その理念と実践』2007）の実践的研究など多くの理論的実践的研究が学校と地域の読書教育活動を巡って行われてきた。

他方で近年、学校や地域における読書教育の推進に加え、地方自治体が中心となった「家読」運動が開始されている。ひとり親家庭の増加や子どもの虐待など家族内人間関係の弱まりによる家庭教育力の低下に対し、この運動は茨城県大子町と佐賀県伊万里市が 2007 年に事業を開始して以後、家庭教育力を高める試みとしてその教育的効果が期待され、すでに 40 以上の都道府県や市町村で実践されている。

本研究は、この「家読」事業を含めた家庭における読書活動を対象とする。

２．研究の目的

本研究の目的は、次の３点にあった。

第１に、2007 年開始以降の「家読」推進活動の各地の展開状況と代表的事例の分析を行う。

第２に、家庭における読書推進事業の国際比較により、日本の「家読」事業の独創性と効果を明らかにする。

第３に、実証的な手法により、「家読」推進事業の教育的効果を測定する

３．研究の方法

次の３つの方法によって研究を展開した。

第１に、国内の家読事業の事例研究、第２に海外事例の研究、及び第３に全国を対象とした家庭の WEB 調査による、家庭における親の読書活動が子どもの教育に及ぼす影響を実証的に明らかにした。

特に、第３の実証的研究においては、

予備調査を 2016/2/5～2/8 に行い、全国男女 20～69 歳を対象として、末子年齢 15 歳以下の幼稚園、小学生、中学生の子供がいる人から、本調査を 2016/2/10～2/16 に実施した。その結果、都市部 800 件、その他の地域 800 件の回答を得た。

表１　調査対象

	東京都・大阪府	その他
幼稚園児の親	200	200
小学生低学年の親	200	200
小学生高学年の親	200	200
中学生の親	200	200

４．研究成果

主な調査結果は、次の点である。

研究の結果、第１については、関東及び関西、長野の事例収集を行った。また、各地の展開状況については、家庭内読書事業の推進を進めるＮＰＯとの連携を行った。

第２については、国際図書館大会への参加から、台湾や韓国といったアジアの事例を除いては、大きな展開がまだみられていないことが明らかになった。日本はその点で読書推進活動が盛んな自治体ほど家読事業を熱心に進めている。しかし、その効果についての実証的な資料は茅野市を除きほとんどみられない。

第３については、研究報告書にその詳細を記したが、推進事業そのものの効果に限らず、家庭の読書自体の効果に関する調査を実施した。その結果、親が読書好きな家庭でもその３分の１の子どもは読書への関心をもつとは限らない。他方そうでない家庭であっても３分の１の子どもは読書への関心を持つ傾向がある。このことから、家庭の重要性はいうまでもなく、学校や地域の読書環境の重要性が明らかにされた。

以下、実証的調査の主な結果についてまとめると次の７点となる。

① 世帯年収の高い家庭ほど、読書活動が盛んである。蔵書冊数もまた、年収と強い関連がみられる。(図１　図３)

② 本を読む親の３分の２の家庭では、子どももまた読書をするが、読書をしない子も３分の１存在する。他方、本を読まない親の家庭では確かに子どもも本を読まない傾向にあるが、そうした家庭でも３分の１の子は読書の習慣を持っている。その背景には家庭だけでなく、学校や公共図書館の読書環境の影響があるとみられる。(図２)

③子どもの学校段階に関わらず、ほぼ２割から４割の家庭では、親と子どもが同じ本を読む傾向にある。

④どの家庭でも、子どもとの対話を大切にすることを子育てで心がけている。

⑤子どもに読書を行わせるための方法としては、書店へ行く、本を自分で選ばせる、子どもの成長に即した本を選ぶなどの工夫を親は行っている。

⑥家庭における読書の効果としては、テレビの見過ぎやゲームのし過ぎに気を配る、読書を子どもの生涯の習慣にできる、家庭内の言葉や子どもの言葉が磨かれる、家庭での過ごし方を充実できる、親子のコミュニケーションができる、などが高い教育効果があるものと考えられている。

⑦読書の教育的効果については、未読者よりも、本をよく読む親ほど、その認識率は高くなっている。

図1 本を読む親と読まない親
（家庭の文化的背景）

地域別	東京・大阪		その他	
	無読	読者	無読	読者
幼稚園	41.5%	58.5%	44.0%	56.0%
小学校低学年	40.5%	59.5%	38.0%	62.0%
小学校高学年	40.0%	60.0%	38.0%	62.0%
中学生	36.0%	64.0%	39.0%	61.0%

世帯年収別	無読	読者	N
分からない・答えたくない	42.8%	57.2%	145
300万円未満	45.4%	54.6%	108
300～500万円未満	51.6%	48.4%	306
500～700万円未満	40.4%	59.6%	428
700～1000万円未満	33.2%	66.8%	374
1000～1500万円未満	30.1%	69.9%	183
1500万円以上	23.2%	76.8%	56

図2 親の読書と子どもの読書

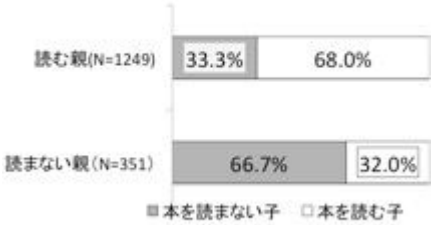
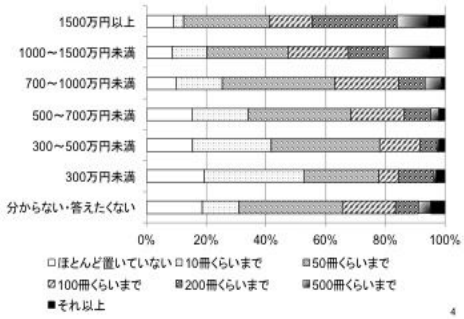


図3 年収別にみた蔵書冊数

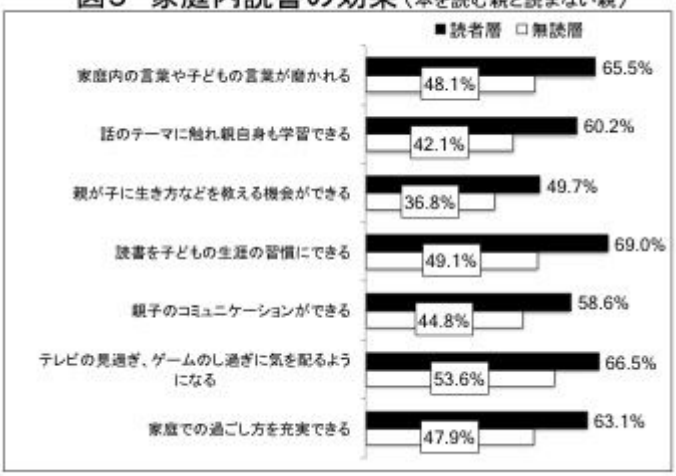


心がけた事	幼稚園	小学校低学年	小学校高学年	中学生
「ありがとう」や「ごめんなさい」を言えるようにする	66.5	63.0	53.5	55.3
絵本や物語を読み聞かせる	60.8	45.5	33.8	35.8
一緒に過ごし、話し相手になる	58.5	54.8	54.8	54.3
周りの人にあいさつや会話をできるようにする	52.5	48.8	46.3	48.8
規則正しい生活を習慣づけるようにする	51.0	47.8	45.8	48.0
絵を描いたり、工作をする機会を与える	43.8	30.3	21.5	18.3
テレビや映画を一緒にみる	38.5	40.0	42.3	42.3
いろいろな地域や場所に連れ出したり、旅に行く	33.8	33.3	32.0	32.3
スイミングスクールや音楽教室など習い事に通わせる	31.3	42.5	37.8	32.8
草花や生き物と触れ合い、野原や川など自然と親しませる	28.0	22.3	19.5	19.0
疑問を持ったことを調べる手助けをする	27.5	32.8	35.8	37.8
近くの子どもなど色々な人と遊ばせる	26.0	23.5	19.8	18.0
面白い本や物語をすすめたり、同じ本を読んだりする	25.5	29.5	30.5	26.5
美しい音楽を聞かせる、楽器に親しませる	21.8	15.0	17.8	18.5
小遣いなどお金の使い方や貯め方を助言する	15.5	29.0	28.8	34.0
その他	0.8	0	1.3	2

表２　子どもを育てる時に心がけた事

図4 家庭で子どもに読書を勧めるための工夫 (%,N=1600)

図5 家庭内読書の効果（本を読む親と読まない親）



５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）

<u>立田慶裕</u>「青年の読書活動–生涯学習の視点から」社会教育、11 月号、2016、頁未定、査読無し

<u>立田慶裕</u>「家庭内読書の教育効果に関する実証的考察」社会教育・生涯学習研究ジャーナル、第９号、査読有、2016、頁未定

〔学会発表〕（計　　件）

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
立田慶裕（TATSUTA Yoshihiro）
神戸学院大学人文学部教授
研究者番号：50135646

(2)連携研究者
岩崎久美子（IWASAKI Kumiko）
国立教育政策研究所総括研究官
研究者番号： 10259989

(3)連携研究者
多賀太（TAGA Futoshi）
関西大学文学部教授
研究者番号：70284461

(4)連携研究者
井上豊久（INOUE Toyohisa）
福岡教育大学教育学部教授
研究者番号：70193597

(5)連携研究者
荻野亮吾（OGINO Ryougo）
東京大学教育学研究科助教
研究者番号：50609948